

実験動物の年間販売数調査

(平成 31(2019)年 4 月～令和 2(2020)年 3 月の販売数)

令和 2(2020)年 9 月 公益社団法人日本実験動物協会生産対策委員会

はじめに

本調査は、実験動物販売数量の経時的把握を目的に、昭和 60 年度から 3 年度毎に行い、今回で 12 回目になります。

調査方法は前回と同様で、①当協会(日動協)と日本実験動物協同組合(実動協)の会員及び会員以外で実験動物を販売していると思われる者並びに大学、公的法人で実験動物を生産、販売(供給)していると思われる者の計 38 者を対象に、②平成 31 年 4 月から令和 2 年 3 月までの 1 年間に、③実験動物のユーザーに対し、直接、生産販売(供給)、仕入れ販売、輸入販売した実験動物数を、アンケート調査方式で把握しました。調査票は郵送し、販売(供給)実績のない場合も、その旨回答をお願いしました。

調査対象

調査対象は、日動協会員 19 者(うち、16 者は実動協組合員)、実動協組合員 26 者(うち、16 者は日動協会員)、大学の動物実験施設 2 者、その他の公的法人 2 者及び日動協、実動協に属さない 5 者の計 38 者です。うち 36 者から有効回答があり、このうち 32 者について実験動物の販売(供給)実績がありました。

アンケートの回答状況

区分	調査票送付者 (A)	回答者 (B)	Bのうち販売(供給) 実績のある者	回答率(B/A) %
日動協、実動協	29	29	27	100
大学、公的法人等	4	3	3	75
その他	5	5	3	100
計	38	37	33	97

アンケート調査対象数の推移

年 度 西 暦	S60	S63	H3	H7	H10	H13	H16	H19	H22	H25	H28	H31
	1985	1988	1991	1995	1998	2001	2004	2007	2010	2013	2016	2019
調査依頼	81	87	66	65	57	52	66	52	44	44	45	38
有効回答	64	68	52	57	54	49	64	52	44	43	42	37
実績あり	60	56	45	49	44	43	40	44	44	39	36	33

調査結果掲載の「LABIO 21」のNo.	10	23	35	46	58	70	80
-----------------------	----	----	----	----	----	----	----

* 「LABIO 21」は日動協の情報誌で定期購読ができます。

* 日動協の HP でも公表しています。

調査結果概要

調査依頼者は、S60年度(第1回)調査の81者から今回H31年度の38者へとこの34年間で半減し、実験動物の販売(供給)実績のある者も60者から33者へと同様の傾向です。

動物種毎に見ると、販売(供給)数はブタ以外の全ての動物種で減少しています。マウスは最多であったS63年度(939万匹)の1/3(299万匹)にまで、ラットは同H3年度(380万匹)の17%(64万匹)にまで、モルモットは同H10年度(535千匹)の10%(54千匹)にまで、ハムスター類は同H10年度(83千匹)の7%(6千匹)にまで、ウサギは同S60年度(334千匹)の10%(33千匹)にまで、イヌは同H3年度(39千頭)の9%(3千頭)にまで、また、ネコは同S60年度(114百匹)の3%(3百匹)にまで、各々減少しています。そして、減少傾向は今回の調査でも引き続いていきます。

一方、サル類はS60年度から減少傾向にあったものの、H10年度を底に増加に転じ、最近3千頭前後で推移してきたものの、今回は2,320頭でした。なお、展示用も含めた輸入頭数は概ね5千頭台で推移してきたものの、今回(H31年1-12月)は4,615頭となり、前回H28年度と同様、本調査頭数と2千頭程度の乖離がありました。これは、ユーザーの直接輸入及び本調査先以外からの購入が多数あることに起因すると思われます。

ブタはS60年度から増加しH10年度を頭に減少に転じ、そしてH19年度を底に増加に転じました。今回の調査では最多の5,085頭でした。

遺伝学的区分別(クローズドコロニー、近交系等)に見ると、マウスではクローズドコロニーと近交系で9割、ラットではクローズドコロニーが9割を占め、この傾向は前回H28年度と同様でした。

微生物統御区分別(コンベンショナル、クリーン、SPF)に見ると、マウス、ラット、ハムスター類では、SPFが概ね100%でした。また、モルモットでは前回H28年度同様クリーンが1割、SPFが9割でした。ウサギではクリーンが4割、SPFが6割と両者の比率が逆転しました。

参考

サル類の輸入頭数

サルはH17年7月1日以降、試験、研究及び展示用以外は輸入禁止となり、輸入頭数は、毎年、農水省の動物検疫所が公表しています。(動物検疫年報(1-12月))

H19年:7,464頭、 22年:5,820頭、 25年:5,215頭、 28年:5,834頭
31年:4,615頭

* 検疫施設からの解放頭数。H31年は速報値。

実験動物販売数 (H31(2019)年度)

動物種	コンベン ショナル	クリーン	SPF	合計 (増減、%)		参 考		
						H28年度計	最大値	年度
マウス								
クローズドコロニー	0	0	987,463	987,463	(▼ 13.1)	1,136,625		
近交系	0	0	1,559,350	1,559,350	(▼ 0.6)	1,659,474		
交雑群	0	0	95,074	95,074	(△ 0.6)	94,479		
ミュータント系	0	0	308,284	308,284	(△ 6.4)	289,717		
コンジェニック系	0	0	2,119	2,119	(△ 37.8)	1,538		
遺伝子改変	0	0	34,485	34,485	(△ 81.8)	18,969		
マウス計	0	0	2,986,775 (▼ 6.7)	2,986,775	(▼ 6.7)	3,200,802	9,389,912	S63
ラット								
クローズドコロニー	0	8	578,584	578,592	(▼ 28.1)	804,582		
近交系	0	0	41,429	41,429	(▼ 38.5)	67,340		
交雑群	0	0	0	0	(—)	0		
ミュータント系	600	0	24,007	24,607	(▼ 10.4)	27,472		
ラット計	600	8	644,020 (▼ 28.0)	644,628	(▼ 28.3)	899,394	3,801,348	H3
モルモット	0	457 (▼ 93.4)	53,209 (▼ 14.5)	53,666	(▼ 22.4)	69,146	534,833	H10
ハムスター類	0	0	5,887 (▼ 30.5)	5,887	(▼ 30.5)	8,465	82,510	H10
その他のげっ歯類	0	0	1,057	1,057	(▼ 16.5)	1,266		
ウサギ	243 (▼ 83.8)	13,975 (▼ 45.9)	19,163 (▼ 6.3)	33,381	(▼ 26.4)	45,341	333,824	S60
イヌ	3,435	0	0	3,435	(▼ 27.7)	4,754	38,915	H3
ネコ	48	0	275	323	(▼ 41.9)	556	11,415	S60
サル類	2,320	0	0	2,320	(▼ 28.9)	3,261	3,462	H19
ブタ	568	832	3,685	5,085	(△ 59.0)	3,199	3,199	H28
ヤギ	4	0	0	4	(▼ 33.3)	6	84	H10
綿羊	0	0	0	0		2	66	H10
鳥類	277	0	1,412	1,689	(▼ 65.1)	4,846	44,830	S63
種鶏卵	35,623	0	3,681	39,304				
その他の 動物種	哺乳類 71 哺乳類以外 2,619	0	104	175 2,619	(▼ 71.2) (▼ 43.6)	607 4,646	4,469 26,557	H10 H13

(注) 1. 増減は前回 (H28年度) との比較。 △: 増 ▼: 減

2. その他のげっ歯類はスナネズミ。

3. その他の動物種の哺乳類はunksとフェレット。

4. 右欄の「最大値 年度」とは、これまでの調査で最大数となった年度とその匹数、頭数。